

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(フィリピン)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業運営委員会 委員 菅哲男
接合科学研究所 客員教授

本年度のフィリピン CIS(カップリングインターンシップ)を、10月25日-11月7日の期間にフィリピン(セブ)で開催しました。大阪大学の外国語学部2名と工学研究科2名、デ・ラ・サール大(DLSU)の社会学部2名と理学部・工学部2名の計8名の学生が参加しました。現地では2日間(10月26日、11月1日)の事前研修を行い、日本企業の理念やコミュニケーションの指導(講師：言語文化研究科の宮脇准教授、藤原特任助教)、溶接知識の教育(VTR)、問題解決の実習などを学生は受講しました。27日から6日間(休日を除く)の企業実習に臨みました。実習先のツネイシ・ヘビー・インダストリーズ(THI)社(常石造船の子会社)で、会社説明(業務内容、安全管理)を受けると共に、工場見学(加工、組立、外業)、CISの実習テーマに関する幹部やライン長とのインタビューなどを行いました。

た。テーマとして「異文化理解の促進」と「労働環境の改善」を設定し、学生はその課題と対策について一生懸命に取り組みました。11月4日にはクロージング・パーティがあり、THIのメンバーと交流を深めました。最終日の6日に、THI社で学生はテーマの検討結果についてプレゼンテーションを行いました。最終報告会には、THIの三島社長、DLSUのPunzalan先生、大阪大学の宮脇准教授、藤原特任助教、菅客員教授ら計32名の参加があり、盛況裏に終了しました。THIの幹部よりは、「有用な提案が出ており、今後の参考にしたい」とのコメントがありました。学生からは「CISに参加して会話力やチームワークの向上の上で勉強になった」との感想が出ていました。文理融合のCISを通して、コミュニケーション力や異文化理解力の習得が出来ており、大変意味のある活動でした。

